

令和3年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立飛騨高山高等学校

学校番号

58

I 自己評価

(全日制課程)

1 学校教育目標	1 「快活」「友愛」「創造」を校訓とし、心身ともに健やかで、より豊かな人間性と「生きる力」を備えた生徒の育成を目指す。 2 社会への貢献や地域の発展に寄与できる人材を目指し、一般教養及び専門的知識や技術を身につけさせるとともに、創造性にあふれ、明朗快活で心豊かな人間性を養う。
----------	---

2 評価する領域・分野	進路指導	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	「学校は、進路説明会等、保護者が必要とする進路情報を提供する場を設け生徒の進路希望に沿った適切なアドバイスをしている。」(保護者肯定的評価：71%、「わからない」の答えが29%)等からわかるように、必要な情報を受け取っていないと感じている保護者が相当数いる。情報をいかに保護者に伝えるか工夫する必要がある。 「学校は、生徒の進路希望に沿った適切なアドバイスをしている。」(生徒肯定的評価：84.7%、否定的評価15.3%)生徒個々に寄り添った進路相談や十分な進路情報の提供に心がけたより丁寧な進路指導が求められている。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	1 キャリアパスポートを活用し、自己実現に向けて主体的に取り組む態度を育てます。 2 地域社会と緊密に連携したキャリア教育を進め、積極的に社会貢献できる人材を育てます。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・管理職を中心に、分掌や学年団、学科との連携を大切に、情報が共有できる組織体制	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
① 個々の生徒の進路希望により添い、生徒が自己達成感をもって進路決定をできる丁寧な進路指導を行います。 ② 進学希望者は第1志望校への合格を目標とします。就職者は第1志望の企業への内定率100%を達成します。 ③ 進路だより、進路行事、ホームルーム活動を通して、生徒が主体的に進路について考え、情報収集できるように努めます。 ④ 国際社会に対応した、広い視野と資質をもった人材の育成に努めます。	① 行事後のアンケートによって、生徒が、「何ができるようになったと感じているのか」を把握し、達成感を評価する。 ② 数値目標の達成。 進学については、第1志望校と進学先の合致 ③ 進路希望調査の具体性を経年変化でみる。生徒、保護者による学校評価アンケートの分析 ④ 実用英語検定、全商英検の合格率	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・個々の生徒にあわせた指導を学科や学年団と連携して行うことができた。 ・学年や学科の専門性を活かしたインターンシップに取り組んだ。 ・進路情報の提供や保護者説明会等をオンライン等の工夫をして実施することができた。	①学科や学年団と情報共有し、個々の生徒の進路希望を把握できたか。 ②ガイダンスや進路行事を通して、生徒の取り組みが主体的になったか。 ③国際社会に対応した、広い視野と資質をもった人材の育成ができたか。	A B C D A B C D A B C D 総合評価 A B C D
11 成果・課題	○学科や学年団と協力しながら個に応じた丁寧な進路指導を行うことで、学年が進むにつれて生徒が主体的に企業研究や学校研究に取り組めるようになってきている。地元企業の協力により、生徒がキャリアを考えるきっかけとなる行事の実施ができた。 ○1年生からのキャリアパスポートの活用により、全学年で計画的に使用できるようになった。 ▲新学科編成へと移行する中、学科の特徴を活かした進路開拓が今後の課題である。 ▲大学受験指導に対する組織的なコミット不足を改善し、3年間を見通した計画や指導方法等の情報共有を推進し、個々の教師の力量に依存しない進学指導を確立し、進学実績を向上させる必要がある。	
12 来年度に向けての改善方策案	・3年間を見通した、より分かりやすい進路指導計画(キャリア教育の計画)を立案し、全職員が意識した取り組みが継続できるようにしたい。 ・大学入学共通テストへの低学年からの取り組みと3年間を見通した受験計画の作成とその実施に努めたい。	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和4年2月10日

【意見・要望・評価等】

- ・全員が希望道理とはいかないが、生徒も保護者も肯定的に評価しているのは大変よい。
- ・今後も、個に寄り添った進路指導を時間をかけて行ってほしい。